

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

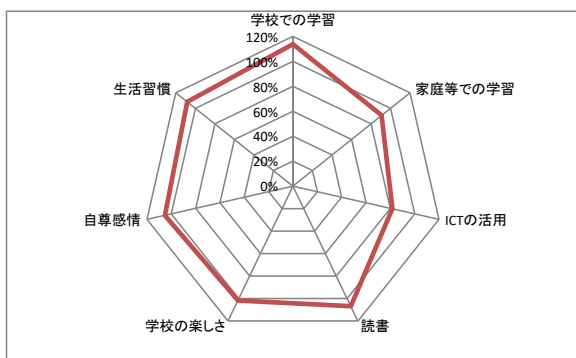
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	9割の問題で、全国平均正答率を上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、全国平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のよいところを見付けたりする問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「録画」「反省」など、学年別漢字配当表に示されている既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	16問中、15問の問題で、全国平均率を上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、全国平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「数と計算」「図形」領域で、処理の仕方を考察し、記述する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	17問中、16問の問題で、全国平均を上回っており、無回答率も低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	器具の正しい名称や正しい扱い方を答える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「総合的な学習の時間では、課題をたて、ICTなどを活用して情報を集め・整理し、調べたことを発表する取組をしている」という割合が全国平均より高い。</p> <p>○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全国平均より高い。また「友達と協力するのは楽しいですか」でも全国平均より高いことから、人との関わりから協力するよさや人の役に立ったという道徳性が育成されてきている。</p> <p>○授業中に「工夫して発表した」「進んで取り組んだ」「自分の考えをまとめる活動をした」の割合が高く、授業改善を進めた成果が出ている。</p> <p>○「普段、1日あたりどれくらいテレビゲームをしているか」という項目に対して、「2時間以上」としている児童が半数以上あり、全国平均より高いことから、スマートフォンや携帯を使ったゲームの時間が長いことがわかる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○「問い」を核に、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりするなど、主体的な学びが発揮できる授業展開をより一層努める。</p> <p>○国語科を中心に、目的や意図に応じた言語活動を充実させ、(例:「分かりやすい文章とは」を検討させていく等)実感を伴った知識を定着させながら、「できた」「分かった」「面白い」という情意面を高めていく授業に努める。</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○今後も、家庭学習の充実や生活習慣のあり方などについて、「学校通信」「学級通信」等で、保護者に協力を呼び掛けたり、学級活動などで取り上げ話し合わせたりすることで、児童自身が自分の生活習慣を見直す契機を積極的ににつくっていく。</p> <p>○ICTの活用をさらに推進するとともに、情報リテラシーについても継続的に指導を行いながら児童の資質・能力を高める。</p>
--